

10. カキ‘西条’のエスレル10散布による <sup>じゅくし</sup> 熟柿生産（技術）			
[要約] カキ‘西条’では10月上旬以降にエスレル10の1,000倍液を散布することにより、散布後7日目ごろから <sup>じゅくし</sup> 熟柿の収穫ができる。			
研究室名	果樹、化学研究室 津山・真庭農業改良普及センター 瀬戸内農業技術センター	連絡先	0869-55-0276 0868-23-2311 0867-44-3111 0865-65-1028

## [背景・ねらい]

カキ、ナシなど様々な果樹で成熟促進に利用されているエスレル10を用いてカキ‘西条’の「熟柿」が計画的に得られるようにする。

## [成果の概要・特徴]

1. 果実が軟化していないカラーチャート値2～4の時期に、エスレル10の1,000倍液を噴霧器で立木に全面散布する。
2. 散布後、軟化の進み方は年次、樹により異なるが、処理後7～14日で60～100%の果実が軟化する（図1）。無処理果実はこの間ほとんど軟化しない。
3. 軟化が進むと裂果も増える傾向にあるが、裂果の発生は年次、樹による差がある（図2）。
4. 落葉や、翌年の樹の生長への影響などの薬害は見られない。

以上の結果、カキ‘西条’において、果皮色がカラーチャート値2～4の果実に対しエスレル10の1,000倍液を散布すると熟期が促進され、散布7～14日後にはほとんどが軟化して熟柿の早期収穫ができる。

## [成果の活用面・留意点]

1. 年次、樹の違いにより軟化するまでの期間は変動するので、成熟状況に合わせて適熟果を適宜収穫する。
2. 処理時期を変えることで10月上旬から11月上旬の間で収穫期の調整ができる。
3. 散布後7日目以降に収穫すること等、使用基準を厳守する。
4. 本剤は平成16年12月に農薬登録されている。

[具体的データ]

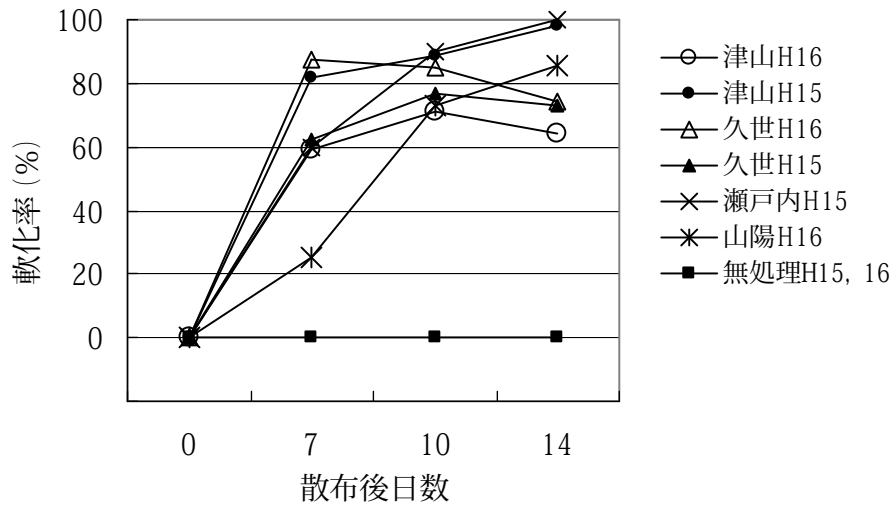


図1 エスレレ10散布後の軟化率の推移

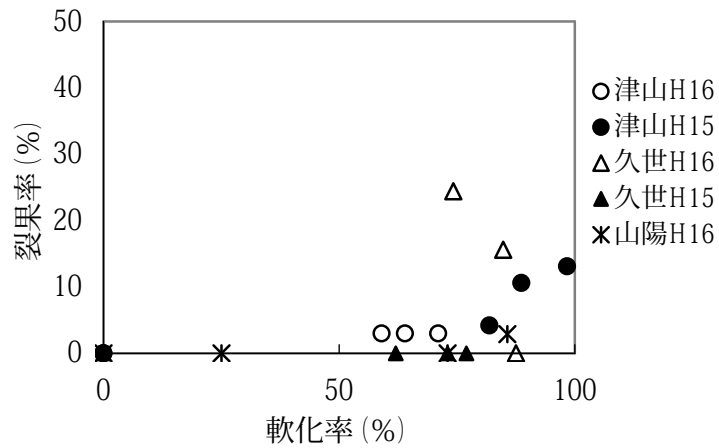


図2 裂果率と軟化率との関係

[その他]

試験研究課題・事業名：マイナー作物等農薬登録推進試験  
 予算区分：県単  
 研究期間：平成15～16年度